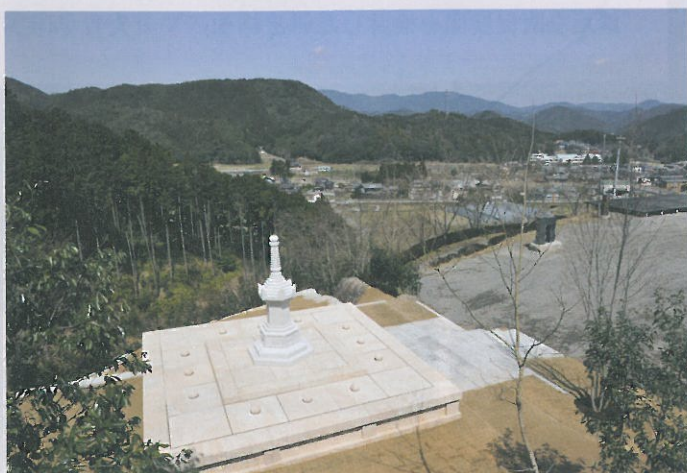


お墓の本質を見極め、 「最高の供養塔」を建立

奈良山霊苑供養塔

今年4月、愛媛県の南、宇和島市に隣接する鬼北町の奈良山霊苑内に建立された奈良山霊苑供養塔。少子化・高齢化に伴い、お墓の継承に不安を抱く人たちの声に応える形で建立されたこの永代供養墓には、「『最高の供養塔』を造りたい」という石材店の思いが凝縮されている。建立当初から多くの問い合わせが相次ぐという、この供養塔の発案、企画を行った株式会社山下石材（愛媛県北宇和郡）代表取締役山下武久氏と、設計・供養塔制作を担当した有限会社翼石材（香川県高松市）高橋晋也氏に話を聞いた。



自然環境との共生が図られている

お墓の大切さを伝えたい

株式会社山下石材は、オリジナル墓地の設計からお墓のリフォーム・クリーニング、ガーデニング小物や玄関の石貼り工事などを幅広く手掛ける総合石材店である。厳選された国産石材を自社工場内で加工する高度な技術は多くの顧客から支持され、地域に根差した石材店としての確かな地位を築いている。

代表取締役である山下武久氏が自らの経験を踏まえて永代供養墓の建立に着手したのは昨年とのこと。「かつては大家族が主流であり、両親や祖父母からご先祖さまをお祭りすることを教えられるのが当たり前だった。しかし、時代の流れの中で少子化・核家族化が進み、お墓を建てたくても建てられない、あるいはお墓はあるけれど自分たちが居なくなったらお墓を守っていく継承者がいない、という不安を抱えている方々が増えている」という実感に基づくものであったという。

「早くに家族を亡くしたこともあり、お墓に対する思い入れは人一倍あると思う。お墓を造り、売るだけではなく、石材店という仕事を通じて、大切な人を供養するお墓の大切さについて皆さんに伝えていきたい。そこで、ご先祖さまを守り供養するすべての人々が安心してお参りできる場所に、『最高の供養塔』を建てたいと考えた」

お墓は生者と死者が 幸せを交換しあう場所

この思いを受けとめ、設計・制作を担当したのが有限会社翼石材の高橋晋也氏である。

「山下石材さまより奈良山霊苑供養塔の設計・制作のお話をいただいたのは、今から2年ほど前。山下社長はこの奈良山に『最高の供養塔』を造り、地域の皆さまに幸せになっていただきたいと、大変熱く真っ直ぐな思いをお持ちだった。私としても、その思いを形にするお手伝いをぜひさせていただきたいと考え、お引受けさせていただいた」

設計においては、お墓の持つ本質について徹底的な検討が行われた。利便性のみをうたうお墓や、供養塔の在り方に疑問をいだいていた高橋氏は、「生者が礼拝供養をすればお礼に死者は加護やご利益、幸福を与えてくれるという互惠関係」の中にお墓の本質を見出した。つまり、お墓は生者と

死者が幸せを交換しあう場所であると考えたのである。この思想は奈良山霊苑供養塔の設計の随所に反映され、広大な敷地内に建てられた荘厳な仏塔は、奈良山霊苑全体のシンボルとして多くの参拝者に愛されている。

デザインはシンプルかつ伝統的に

奈良山霊苑供養塔の本体は、墓塔・供養塔などに多く用いられる宝篋印塔である。その下には、供養塔を荘厳にするための壇上積式基壇が設えられ、基壇上に12個の摩尼宝珠が配されている。

この仏塔の設計において、高橋氏は「古来、民衆の死後救済を請け負ったのは仏教である」と考え、伝統的な仏教の教義にのっとったデザインを考案した。

「最近のお墓や供養塔の傾向として、派手な飾りやモダンなデザインのものも多く、これでは安置される方も参拝者もとても落ち着くことはできない。そこで、奈良山霊苑供養塔はシンプルかつ伝統的であることをテーマとした」

供養塔の敷地面積は334㎡、地下の納骨室には200室の納骨スペースと8,000体の合祀スペースがある。地下の納骨室に安置された遺骨は、基本的に33回忌以降は合祀される。施主の要望により、納骨堂に安置せずに直接合祀したり、一定期間安置し、33年を待たずに合祀することも可能だ。

「一般的な仏教の思想では、33回忌を迎えると『弔い上げ』といって法要を打ち切り、故人の霊は日本人の固有信仰（祖先崇拝）である先祖の霊『氏神』と合一される。奈良山霊苑供養塔においても、同様の仕組みを取り入れ、最長33年間お骨を安置して故人（先祖）の供養を行うこととした。もちろん、合祀といってもお骨をひとまとめにしてしまうような粗末なものではない。摩尼宝珠を設置している板石の下に合祀スペースを設け、摩尼宝珠によってきちんと供養・お祀りする形を取り入れた」

施工へのこだわり、 自然環境への配慮

供養塔制作にあたっては、本体である宝篋印塔と壇上積式基壇の設計で約半年、石工7名による制作でさらに半年の期間が費やされた。高



施工風景



納骨室入り口



納骨室内部

橋氏は、「永代供養塔は永年にわたってお参りされるもの。長年眺めていても飽きのこないデザインを実現するため、石肌はすべて手作業の叩き仕上げ加工を施した」と施工へのこだわりを語る。

地下納骨室についても、「企画当初から山下社長より地下納骨室をつくりたいという要望をいただいていた。納骨堂は大切なお骨を収蔵する場所。地下室独特のジメジメとした場所にならないよう、住宅に使用されている地下室を採用して、一定の湿度と温度を管理する空調設備を